あいめ保育園　自己評価シート

評価実施日　2026　年　3 月　30 日　　**評価担当者　　宮里　大輔**

A：十分にできている　　B：概ねできている　　C：一部出来ている　　D：できていない

① 子ども（子ども主体の保育）

評　価　項　目	A	B	C	D	コメント・具体的な様子
子ども一人ひとりの発達や個性を理解して関わっている	☐	☐	☑	☐	子どもの発達過程を勉強する必要がある
子どもが安心して過ごせる環境を整えている	☐	☑	☐	☐	子どもの環境は作れているが、整えたほうが良いところが多い
子どもの主体性を大切にしている	☐	☑	☐	☐	子どもの声をよく聞いて遊びを展開する様子がある
子どもの気持ちを受け止めた関わりをしている	☐	☑	☐	☐	「〇〇だったね」と子どもの気持ちを声にして共感することができている
遊びや生活を通して子どもの成長を支えている	☐	☐	☑	☐	どの遊びがどの成長につながるのか、もっと知る必要がある

② 保護者（寄り添う保育）

評　価　項　目	A	B	C	D	コメント・具体的な様子
保護者との信頼関係づくりを大切にしている	☑	☐	☐	☐	コミュニケーションは良くできている
日々の様子を保護者に分かりやすく伝えている	☑	☐	☐	☐	口頭や連絡帳で伝えられている
保護者の不安や悩みに寄り添っている	☑	☐	☐	☐	連絡帳などでの返事をしっかり行い、情報共有しながら口頭でも話す機会を作っている
園の方針や保育内容を丁寧に説明している	☑	☐	☐	☐	園だよりやクラスだよりの活用
保護者が安心して預けられる関係を築いている	☑	☐	☐	☐	報連相を徹底して行っている

③ スタッフ（チーム保育）

評　価　項　目	A	B	C	D	コメント・具体的な様子
職員同士で情報共有を行っている	☐	☑	☐	☐	全体の共有はできているが、個人間の連絡共有は弱い
困ったときに助け合える関係がある	☑	☐	☐	☐	「声を掛け合う」理念の浸透
意見やアイディアを出し合える雰囲気がある	☑	☐	☐	☐	業務改善アンケートの敵機的な実施がある
保育の振り返りを行い学び合っている	☐	☐	☑	☐	振り返りの学び合いは少ない
それぞれの強みを活かして保育を行っている	☐	☐	☑	☐	

④ 職場（働きやすい環境）

評　価　項　目	A	B	C	D	コメント・具体的な様子
職員が安心して働ける職場環境を整えている	☐	☐	☑	☐	もう少し職員を確保したい
保育理念や園の方針が共有されている	☑	☐	☐	☐	毎月の会議で理念の共有をする時間を設けている
業務が整理され効率的に行われている	☐	☑	☐	☐	ICT を使いながら、効率化できている
研修や学びの機会がある	☐	☑	☐	☐	定期的な園内研修
職員の意見を園運営に活かしている	☐	☑	☐	☐	職員アンケートや職員面談の定期的な実施

⑤ 地域（地域とのつながり）

評　価　項　目	A	B	C	D	コメント・具体的な様子
地域との交流を大切にしている	☐	☑	☐	☐	ハロウィンや夏祭りでの交流あり
地域の人に保育園を知ってもらう取り組みを行っている	☐	☑	☐	☐	
地域資源（公園など）を保育に活かしている	☐	☑	☐	☐	園外保育での活用
地域の子育て家庭に情報発信を行っている	☐	☐	☑	☐	SNS を活用しているが、まだ不足
地域に開かれた保育園づくりを行っている	☐	☑	☐	☐	バザーを開催して地域交流の場を設けている

◎総合評価と今後の取り組み

園の強み（成功事例や子どもたちの成長が見えた部分）

理念の共有や浸透が少しずつできている。全体の意識としては向上している。

今年度もバザーを開催し、地域の人や卒園した園児の家族も来園してもらえた。

親子カレーの際に初の試みとして、性教育（いのちの話）を親子向けに行った。好評の声をいただくことができたので、引き続き行っていく。

改善が必要な点（具体的なエピソードや課題の原因分析）

保育計画の「ねらい」が発達に合わないところもあり、子どもの発達過程をあいまいに捉えている。研修会をする必要がある。また、保育書類の効率的な記入の仕方についても定期的に勉強会をしていく。

バザーの際は、周知が弱かった。SNS などを活用し、周知にも力を入れていく。

次年度重点取り組み

上記に挙げた点。

職員の保育スキルの向上を進めていく。